

## 参考データ集

2009年5月15日

## 連結子会社および持分法適用関連会社 **INPEX**

### 連結子会社 54社

主な連結子会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中	3月(仮決算)
ナトゥナ石油	インドネシア	100%	生産中	3月
サウル石油	チモール海・共同開発地域	100%	生産中	12月
インペックス西豪州ブラウズ石油	オーストラリア	100%	開発準備作業中	3月(仮決算)
インペックス南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中	3月(仮決算)
インペックス北カスピ海石油	カザフスタン	45%	開発中	3月(仮決算)

### 持分法適用関連会社 13社

主な持分法適用関連会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	開発中	12月
アンゴラ石油	アンゴラ	19.6%	生産中	12月
インペックス北カンポス沖石油	ブラジル	37.5%	開発中	12月

# 所在地別セグメント情報

2009年3月期連結累計期間(2008年4月1日～2009年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	消去または 全社	連結
売上高	93,423	435,824	73,687	463,150	10,079	1,076,164	-	1,076,164
営業費用	59,540	150,415	39,222	144,459	11,419	405,058	7,839	412,898
営業利益	33,882	285,408	34,464	318,691	△1,340	671,106	(7,839)	663,266
資産	208,326	409,559	365,913	189,270	85,168	1,258,236	509,808	1,768,044

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度及び事業活動の相互関連性によっております。  
 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) アジア・オセアニア.....インドネシア、オーストラリア、東チモール、ベトナム  
 (2) ユーラシア(欧州・NIS諸国)...アゼルバイジャン、カザフスタン、イギリス  
 (3) 中東・アフリカ.....アラブ首長国連邦、コンゴ民主共和国、イラン、リビア、エジプト、アルジェリア、アンゴラ  
 (4) 米州.....ベネズエラ、エクアドル、アメリカ合衆国、カナダ、スリナム、ブラジル  
 3 営業費用のうち、「消去又は全社」の項目に含めた配賦不能営業費用(11,129百万円)の主なものは、のれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。  
 4 資産のうち、「消去又は全社」の項目に含めた全社資産(513,129百万円)の主なものは、のれん、現金預金、有価証券、投資有価証券及び管理部門に係る資産であります。

2

# LPG売上高

	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	121	158	37	30.9%
販売量(千bbl)	1,549	2,067	518	33.5%
海外生産分平均単価 (\$/bbl)	62.00	68.03	6.03	9.7%
国内生産分平均単価 (¥/kg)	130	143	12	9.9%
平均為替(¥/\$)	116.26	103.83	12.43円高	10.7%円高

地域別販売量(千bbl)	08年3月期	09年3月期	増減	増減率
日本	183 (17.4千ト)	191 (18.2千ト)	8 (0.8千ト)	4.6%
アジア・オセアニア	1,366	1,876	510	37.3%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	1,549	2,067	518	33.5%

3

# 利払い・償却・探鉱費前利益(EBIDAX)

(百万円)	08年3月期	09年3月期	増減	備考
純利益	173,245	145,062	△28,183	P/L
少数株主損益	21,204	725	△20,479	P/L
減価償却相当額	134,944	95,450	39,494	
減価償却費	36,181	42,966	6,785	C/F コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	6,616	6,760	144	C/F
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	92,147	45,724	△46,423	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	57,785	46,010	11,775	
探鉱費	34,095	25,982	△8,113	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金操入額	20,586	16,642	△3,944	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
探鉱事業引当金操入額	3,104	3,386	282	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
重要な非現金項目	△4,467	△7,797	△3,330	
法人税等調整額	△5,502	△17,883	△12,381	P/L
為替差損益	1,035	10,086	9,051	C/F
税引後ネット支払利息	△62	△3,585	△3,523	P/L 税引後の支払利息一受取利息
<b>EBIDAX</b>	<b>382,649</b>	<b>275,865</b>	<b>△106,784</b>	

4

# 生産物回収勘定の増減推移

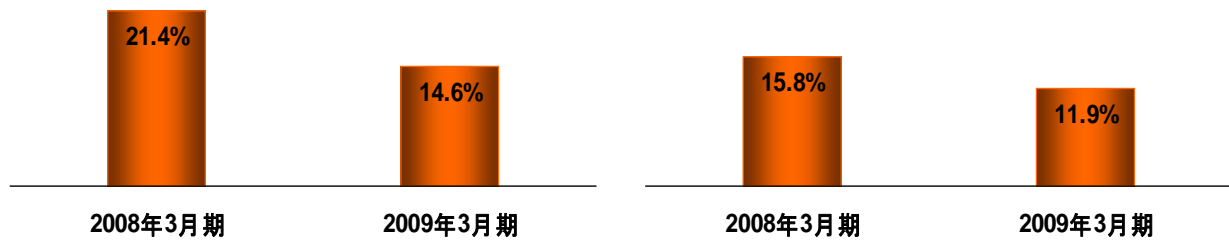
(百万円)	07年3月期	08年3月期	09年3月期
生産物回収勘定(期首)	295,075	319,149	383,162
増加:			
探鉱投資	9,791	27,459	23,643
開発投資	160,113	183,002	160,589
操業費	46,683	52,697	55,929
その他	16	-	-
減少:			
コスト回収(CAPEX)	105,949	92,147	45,724
コスト回収(Non-CAPEX)	86,319	106,047	104,847
その他	262	951	18,830
生産物回収勘定(期末)	319,149	383,162	453,922
生産物回収勘定引当金	51,190	71,445	87,828

5

# 収益性指標

## ネットROACE\*

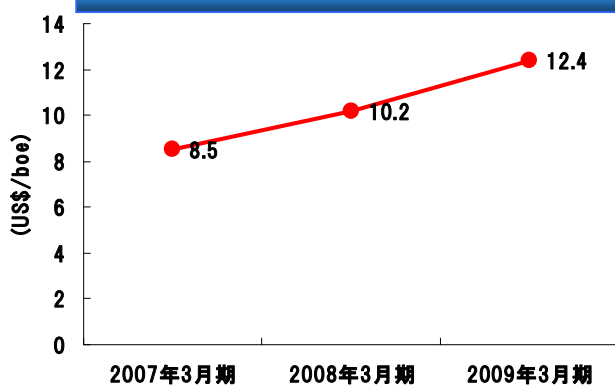
## ROE\*\*



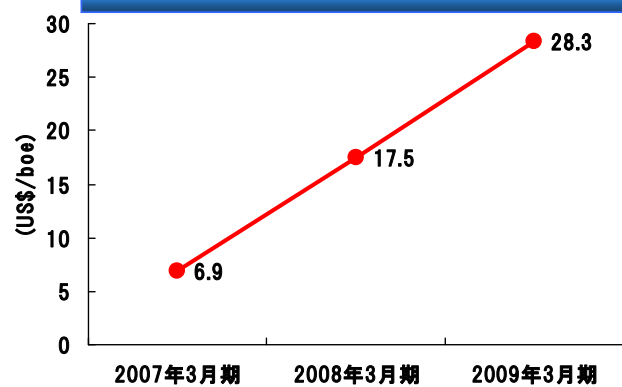
\* ネットROACE = (当期純利益 + 少数株主損益 + (支払利息 - 受取利息) × (1 - 実効税率)) / (純資産及び純有利子負債の合計の期初と期末の平均)  
 \*\* ROE = 当期純利益 / (純資産 - 少数株主持分)の期初と期末の平均値

# 埋蔵量・生産量指標

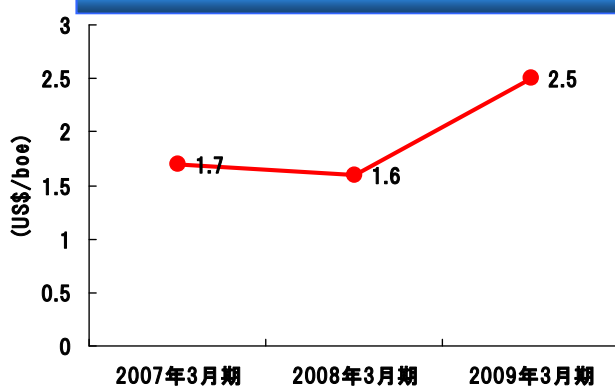
## 原油換算1バレル当たりの生産コスト



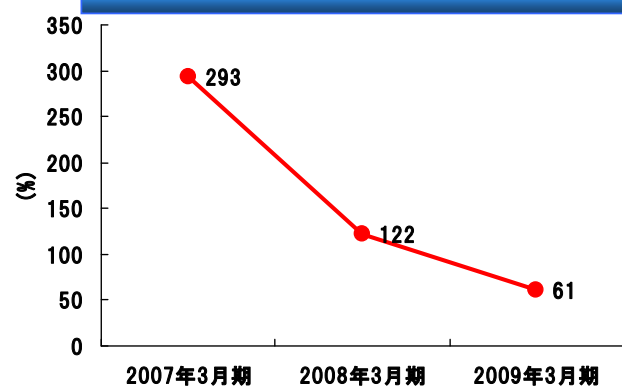
## 原油換算1バレル当たりの探鉱・開発コスト(3年平均)



## 原油換算1バレル当たりの販売費及び一般管理費

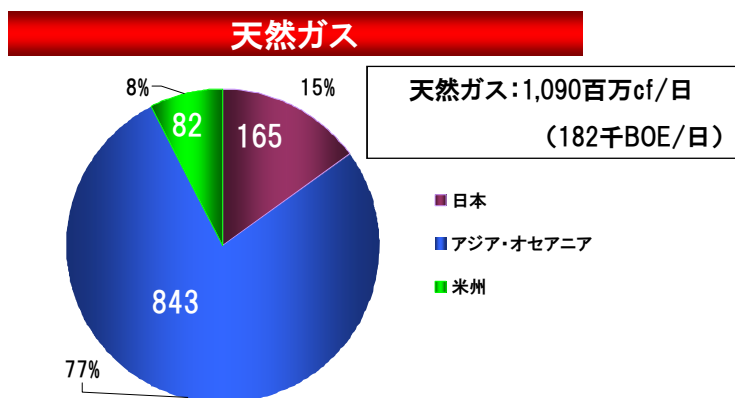
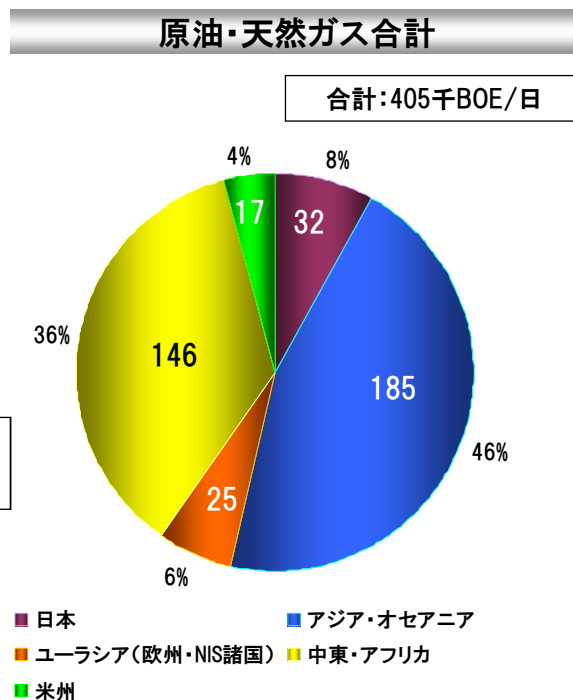
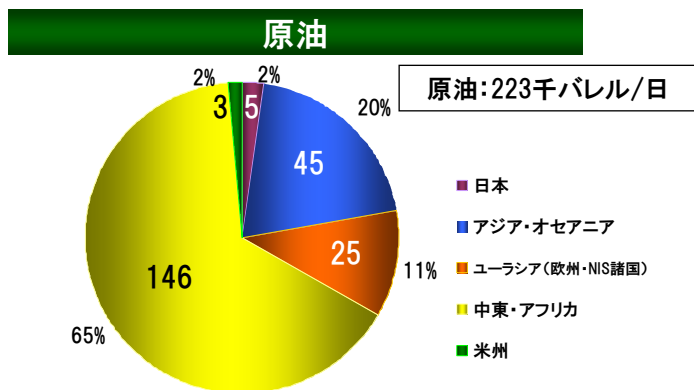


## リザーブリプレースメントレシオ(3年平均)



# 生産量\*(2008年4月-2009年3月)

**INPEX**

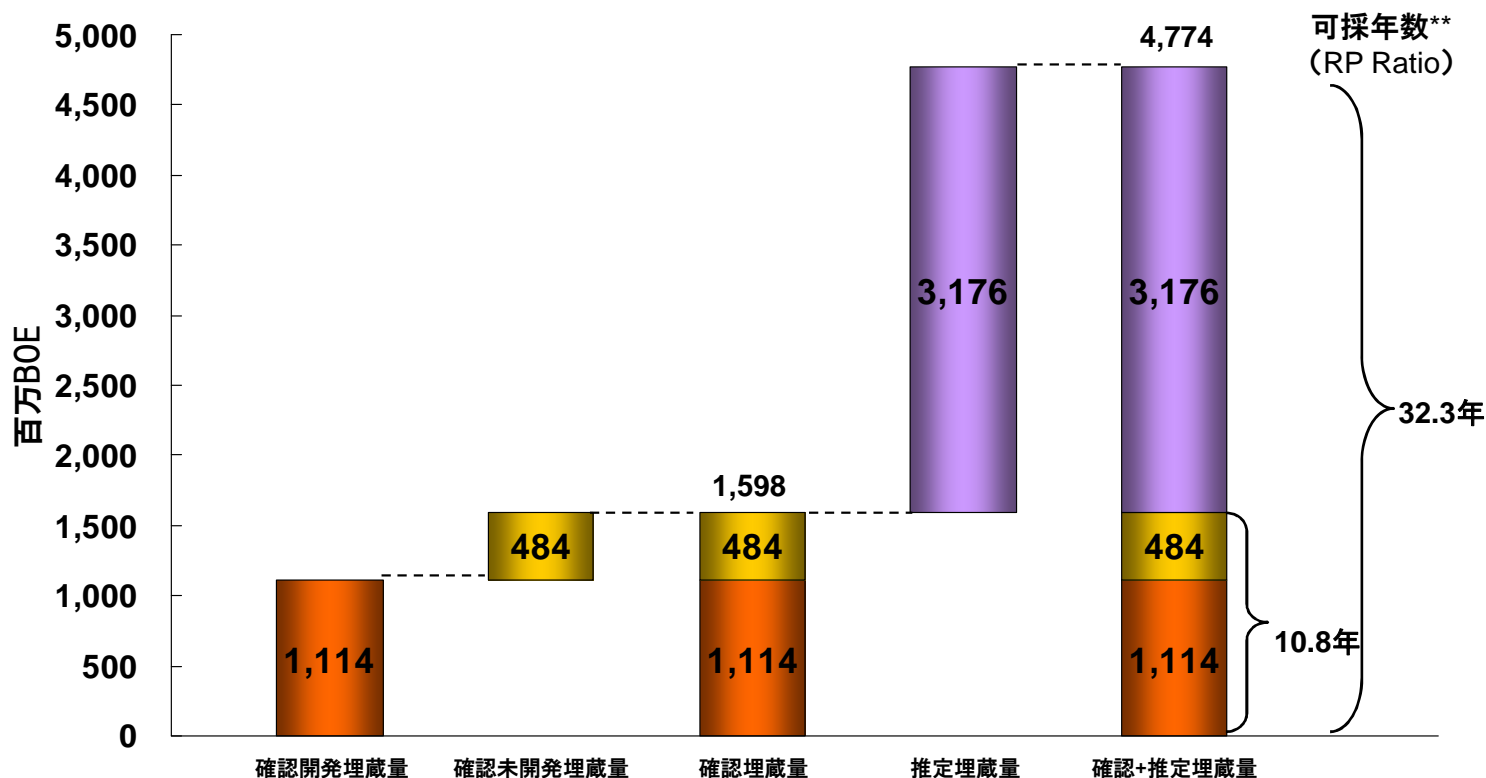


8

\* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

## 確認埋蔵量・推定埋蔵量\* によるアップサイド・ポテンシャル

**INPEX**



\* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC)規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。推定埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSIに従った。DeGolyer&MacNaughton社評価対象外の埋蔵量は含まない。また、持分法適用会社の持分を含む。

9 \*\* 可採年数=2009年3月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2009年3月期生産実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

## プロジェクト参考データ

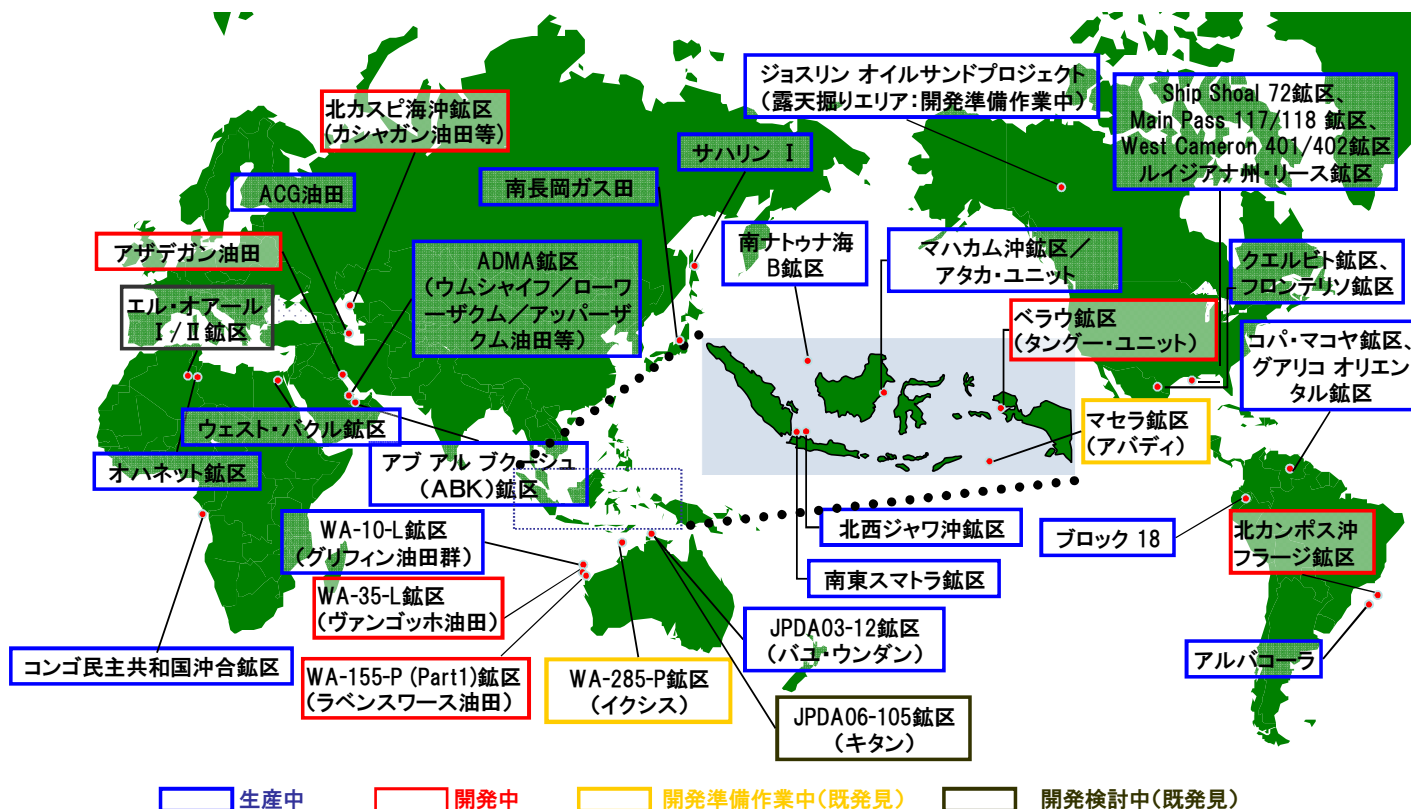
### 2010年3月期 探鉱計画\*



\* ( )内の数字は掘削坑井数  
 \*\* オペレータープロジェクト  
 \*\*\* 権益取得費を含む

	探鉱投資額*** (億円)	試探掘井(本)	2D震探(km)	3D震探(km <sup>2</sup> )
2009年3月期	590	24	4,303	1,834
2010年3月期	450	24	1,280	4,474

# 主な生産・開発プロジェクト



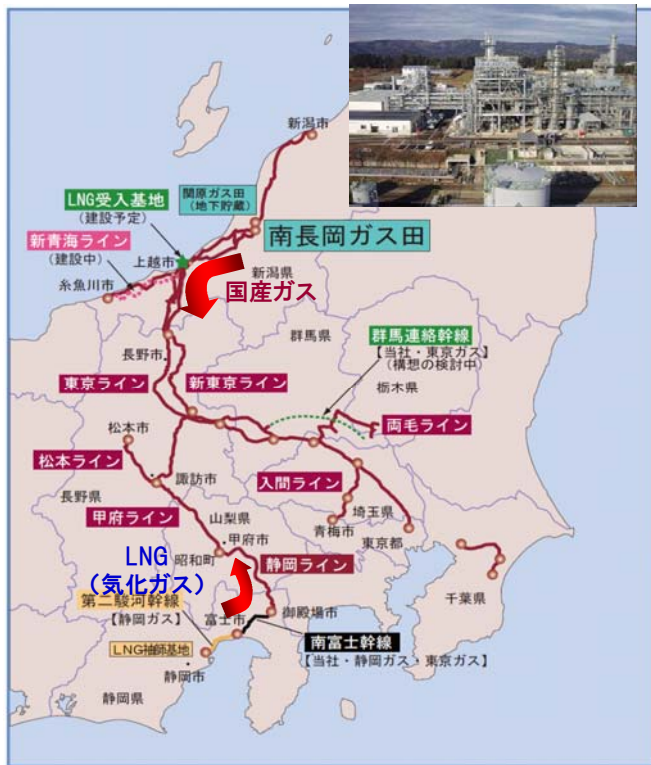
12

# 生産開始スケジュール

生産開始	プロジェクト・油ガス田	国	オペレーター	ピーク生産量・生産キャパシティ	当社シェア <sup>*1</sup>
09年4月～10年3月	タンゲールプロジェクト フラージュ油田 ヴァン・ゴッホ油田 ノースブルットガス田	インドネシア ブラジル オーストラリア インドネシア	BP Chevron Apache ConocoPhillips	760万 <sup>トン</sup> /年 10万bbl/日 6万bbl/日 - <sup>*2</sup>	7.79% 6.85% 47.499% 35%
10年4月～11年3月	ラベンスワース油田	オーストラリア	BHPBP	- <sup>*2</sup>	28.5%
12年4月～13年3月	カシャガン油田 ウムルル油田	カザフスタン アラブ首長国連邦	NCOC <sup>*4</sup> ADMA-OPCO	150万bbl/日 - <sup>*2</sup>	7.56% 12.0%
14年4月以降	ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り) イクシスLNGプロジェクト(LNG) (コンデンセート) (LPG) アバディLNGプロジェクト ナスル油田	カナダ オーストラリア  インドネシア アラブ首長国連邦	TOTAL 当社  当社 ADMA-OPCO	20万bbl/日 800万 <sup>トン</sup> 超/年 約10万bbl/日 約160万 <sup>トン</sup> /年 450万 <sup>トン</sup> 超/年 <sup>*3</sup> - <sup>*2</sup>	10% 76%  100% 12.0%
既発見・ 生産開始未定	クダ・タシ/ジャハール/キタン構造 カイラン/アクトテ/カラムカス/カシャガンサウスウェスト構造 エルオアールI&II	JPDA カザフスタン  アルジェリア	ENI NCOC <sup>*4</sup>  ENI	未定 未定 未定	35% 7.56% 10.29%
フェーズ1本格生産は 未定 (初期生産中)	アザデガン油田	イラン	NICO	26万bbl/日	10%

\*1 当社シェアは、鉱区権益比率。ただし、持分法適用関連会社は、鉱区権益比率に当社出資比率を乗じたもの  
 \*2 プロジェクトパートナー各社との守秘義務上、公開不可  
 \*3 フェーズ1  
 \*4 North Caspian Operating Company

13



- 生産量\*
  - ・ 天然ガス：約4.4百万m<sup>3</sup>/日
  - ・ 原油：約5千バレル/日
- 天然ガス販売量
  - ・ 2008年度は前期比2%減少
  - ・ 足元の需要は鈍化傾向にあるものの、中長期的には20億m<sup>3</sup>を超える規模の需要を想定
- 南長岡ガス田(1984年生産開始)
  - ・ MHF技術により北部開発を促進
- パイプラインネットワークの拡充(総延長約1,400km)
  - ・ 新青海ライン(約67km/約238億円/本年9月末完成予定)
  - ・ 群馬連絡幹線構想(東京ガス(株)との共同検討)
- LNGの導入(2010年～)
  - ・ 静岡ガス(株)からLNG気化ガスを導入
- 直江津LNG受入基地の建設(2014年操業開始予定)
  - ・ 当社グループによるガスサプライチェーン構築へ
- 発電事業：約5.5万kw

国内パイプラインネットワーク

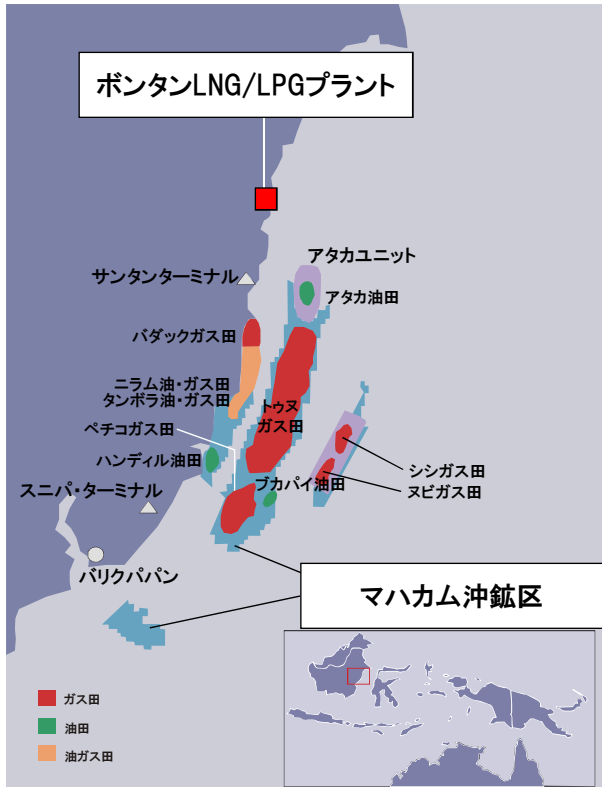
\* 国内油田・ガス田の合計(2008年度平均日産量)

## 国内天然ガス価格

単位あたりの価格の比較

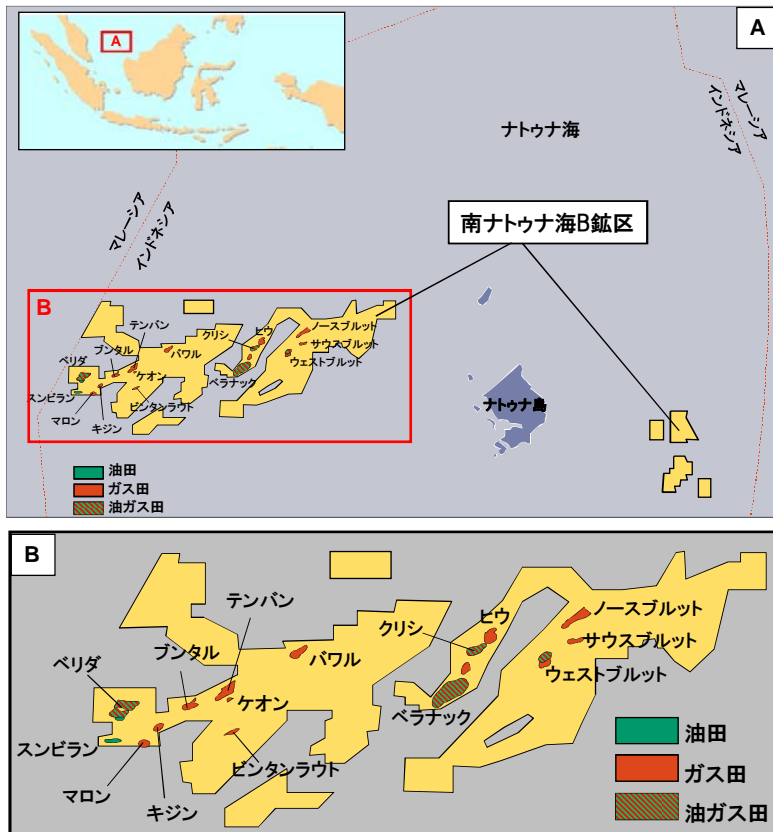






注: \* 全鉱区ベース、2009年3月平均日産量

- 当社権益比率: 50%  
(オペレーター: TOTAL)
- 生産量\*
  - ・ 原油・コンデンセート: 日量約7万7千バレル
  - ・ 天然ガス: 日量約25億立方フィート
- PS契約: 2017年まで
- ボンタンLNG基地へのガス安定供給を目的として開発作業を継続
  - ・ トウヌ/ペチコガス田の段階的開発
  - ・ タンボラ油・ガス田の追加開発
  - ・ シシ/ヌビ ガス田の開発
- 2010年12月、2011年3月に更新を迎えるLNG販売契約の延長



\* 全鉱区ベース、2009年3月平均日産量

- 当社権益比率: 35.0%  
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量\*:
  - ・ 原油: 日量約6万4千バレル
  - ・ LPG: 日量約1万2千バレル
  - ・ 天然ガス: 日量約5億立方フィート
- PS契約: 2028年まで
- SembCorp社(シンガポール)と2001年より22年間、Petronas(マレーシア)と2002年より20年間の天然ガス販売契約締結
- 世界有数規模のFPSOで操業を行うベラナック油ガス田では2004年12月より原油・コンデンセートの生産を開始、2007年4月よりLPGの生産を開始。クリシ油ガス田について2007年12月より生産開始
- ノースブルットガス田は2009年第3四半期生産開始を予定

# ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト) MI Berau B.V./MIベラウジャパン

**INPEX**

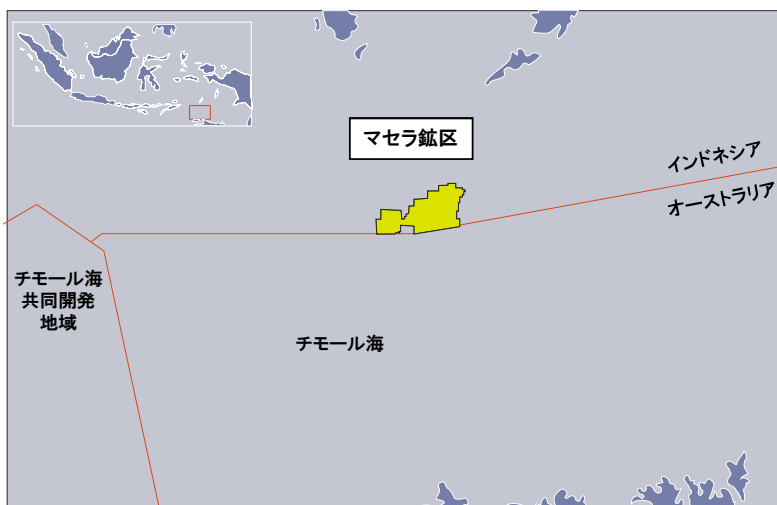


- MI Berau/MIベラウジャパン\*:  
三菱商事とのJV(当社44%、三菱商事56%)  
\*MIベラウジャパンはケージーベラウ石油開発に約16.5%出資
- 権益比率:  
MI Berau分: ベラウ鉱区 22.9%(タンゲー・ユニット 16.3%)  
ケージーベラウ石油開発分: ベラウ鉱区 12%(タンゲー・ユニット 8.56%)  
(オペレーター:BP)
- PS契約: 2035年まで
- インドネシア政府より、開発計画、生産分与契約の延長についての承認取得
- LNGプロジェクト開発費用として、総額35億米ドルの融資契約を締結済
- 建設中のLNGプラントは2009年第2四半期生産開始予定
  - ・ 年間760万トンのLNGを生産する計画
  - ・ 中国福建省向けLNG長期販売契約を締結
  - ・ 韓国POSCO社及びK-Power社とLNG販売契約を締結
  - ・ 米国Sempra社とLNG販売契約を締結

18

# マセラ鉱区(アバディ) インペックスマセラアラフラ海石油

**INPEX**

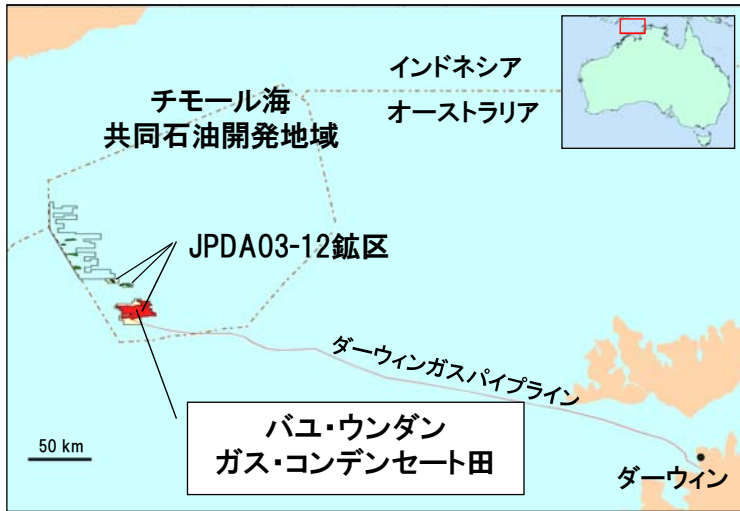


- 当社権益比率: 100.0%
- オペレーター: 当社
- PS契約:
  - ・ 探鉱期間10年間(2008年まで)
  - ・ 開発・生産期間20年間(2028年まで)
- 2000年に試掘井アバディ1号にて天然ガスを発見
- 2002年に評価井2坑を掘削、アバディ構造が大規模ガス田であることを確認
- 埋蔵量評価を目的として、2007年5月より4坑の評価井掘削を実施
- 2008年9月に開発計画(POD)をインドネシア政府(BPMIGAS)に提出し、その後、同開発計画について基本承認を取得
- 開発計画の要旨
  - ・ Floating LNG
  - ・ LNG生産規模は年間450万トンを30年以上
  - ・ 生産開始目標: 2016年想定

19

# JPDA03-12 鉱区 (バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田) サウル石油

**INPEX**



- 当社権益比率: 11.27%  
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量\*
  - ・ コンデンセート: 日量約6万1千バレル
  - ・ LPG: 日量約3万6千バレル
  - ・ 天然ガス: 日量約11億立方フィート
- PS契約: 2022年まで
- 2004年2月にコンデンセート/LPG販売開始
- 2005年8月、東京電力/東京ガスとLNG販売契約締結(2006年から17年間、年間300万トン)
- 2006年2月、LNG販売開始

\* 2009年3月平均日産量

20

# WA-285-P 鉱区 (イクシス) インペックス西豪州ブラウズ石油

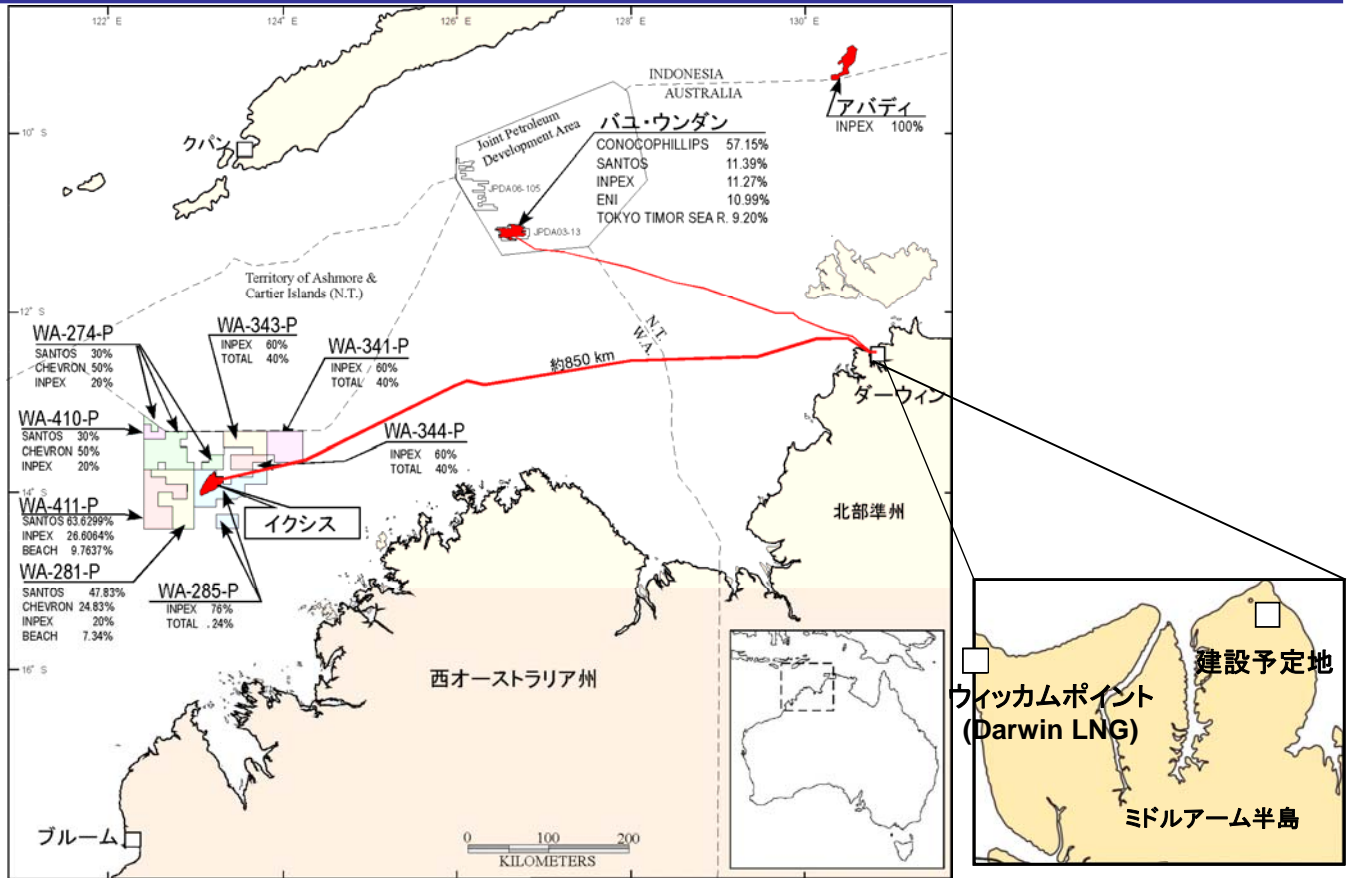
**INPEX**



- 当社権益比率: 76.0%
- オペレーター: 当社
- 利権契約:
  - ・ 探鉱期間 2009年9月まで
  - ・ 生産期間 生産ライセンス付与から21年(延長可)
- 2000年より計6坑井を掘削し大規模天然ガス・コンデンセート田を確認、イクシス構造と命名
- 2006年5月、豪州連邦政府及び西豪州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2006年8月、長期にわたり豪州経済発展に貢献するプロジェクトとして、豪州連邦政府が主要促進プロジェクトに認定
- ガス埋蔵量の拡大を目的として、試掘井Dinichthys North-1を2007年4月より、また試掘井Ichthys West-1を2008年4月より掘削し、計8坑の試探掘を実施
- 2008年5月、豪州連邦政府及び北部準州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2008年9月、ガス液化プラント建設地を北部準州ダーウィンに決定
- 2009年1月、ガス液化プラントの基本設計作業(FEED)開始
- 2009年4月、イクシス ガス・コンデンセート田生産施設の基本設計作業(FEED)開始
- 2009年4月、ダーウィン事務所開設
- 初期段階ではLNGを年間800万トン超、コンデンセートを日量約10万バレル、LPGを年間約160万トン生産予定

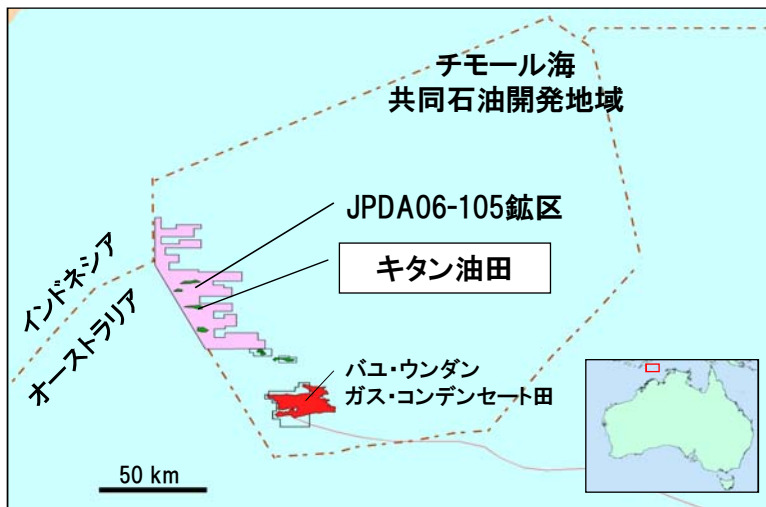
21

# インペックス西豪州ブラウズ石油 保有鉱区位置図 **INPEX**



22

## JPDA06-105 鉱区 (キタン油田) インペックスチモールシー **INPEX**

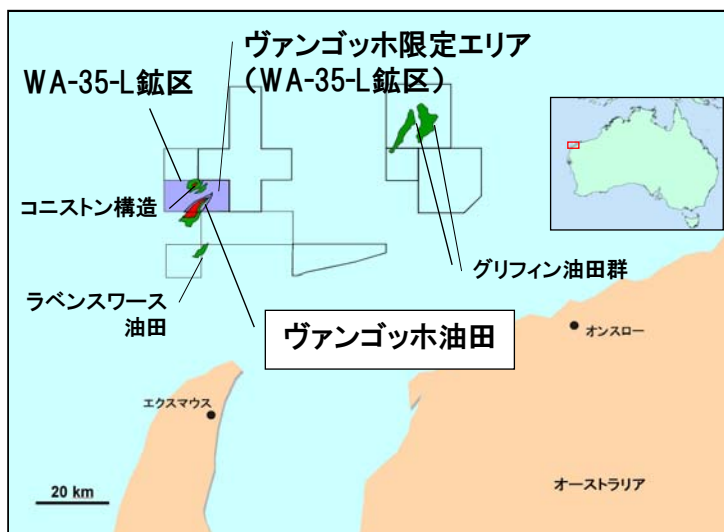


- 当社権益比率: 35%  
 (オペレーター: Eni)
- PS契約: 2011年9月まで
- 1994年以降、試掘井6坑井、評価井3坑井、計9坑井を掘削
- 2008年3月、試掘井キタン1号井及び評価井キタン2号井において原油を確認
- 2008年4月、キタン油田商業発見宣言
- 現在、キタン油田の開発計画策定中
- 2009年5月、キタン油田の開発計画を東チモール当局に提出予定

23

# WA-35-L 鉱区(ヴァンゴッホ油田) アルファ石油

**INPEX**

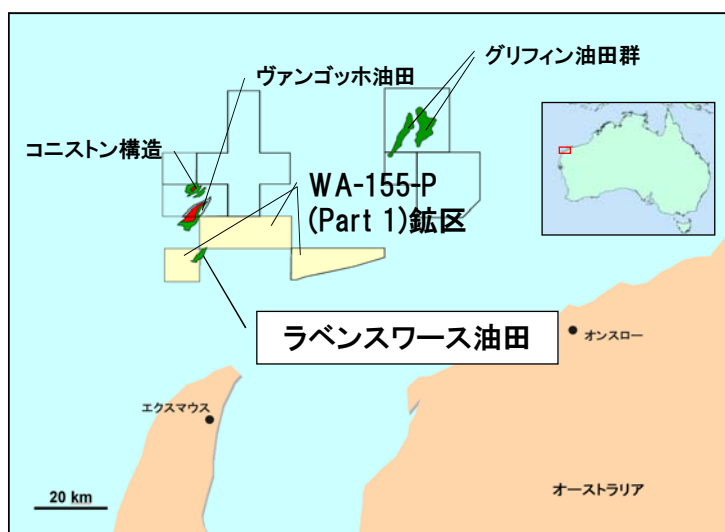


- 当社権益比率:47.499%  
(オペレーター: Apache)
- 利権契約(2008年10月生産ライセンス取得)
- 2007年4月に開発移行を決定
- 2009年第4四半期の生産開始を目指し開発作業中

24

# WA-155-P(Part 1) 鉱区(ラベンスワース油田) アルファ石油

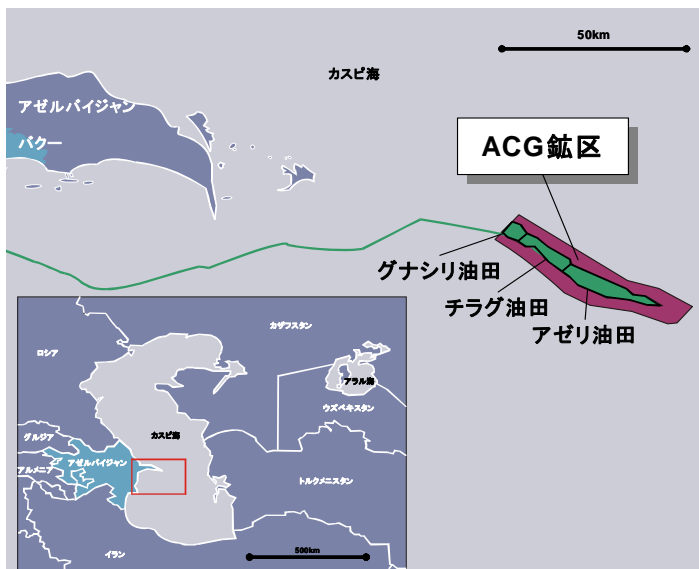
**INPEX**



- 当社権益比率:28.5%  
(オペレーター:BHPBP)
- 利権契約 (現在生産ライセンス申請中)
- 隣接するWA-12-R 鉱区のクロスビー油田、スティックル油田を含めた一体開発計画を策定
- 2007年11月に開発移行を決定
- 2010年第3四半期の生産開始を目指し、開発作業中

25

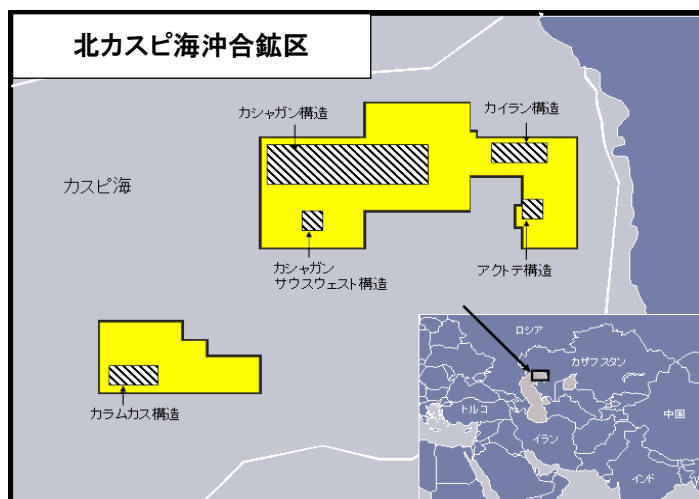
# ACG油田 インペックス南西カスピ海石油 INPEX



注: \*1全鉱区ベース、2009年3月平均日産量

- 当社権益比率: 10.0%(オペレーター:BP)
- 生産量:日量約79万バレル\*1,2
- \*2 2008年9月にアゼリ油田(中央部)のプラットフォーム近傍にて発生したガスリークへの対処のため一時減産を行ったが、現在計画生産量への回復を目指し、順次対策を実施中。
- PS契約: 2024年まで
- チラグ油田は1997年に生産開始
- フェーズ1: アゼリ油田中央部は2005年2月に生産開始
- フェーズ2: アゼリ油田西部は2005年12月に生産開始、アゼリ油田東部は2006年10月に生産開始
- フェーズ3: グナシリ油田深海部は2008年4月に生産開始

# カシャガン油田他 インペックス北カスピ海石油 INPEX

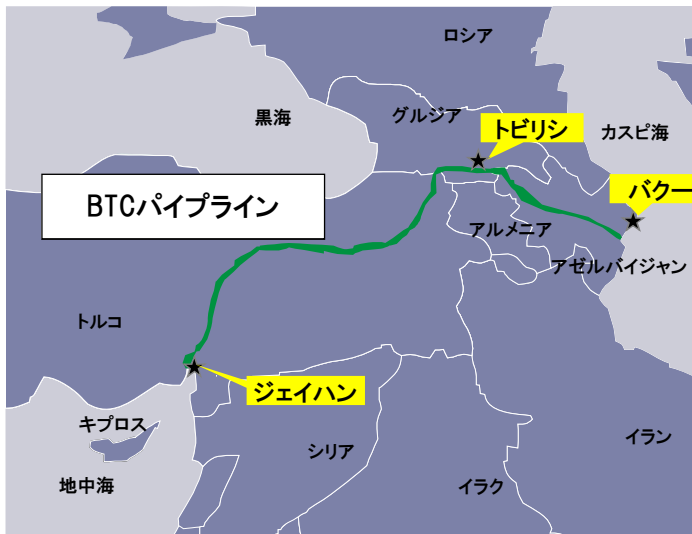


- 当社権益比率: 7.56%
- PS契約: 2021年末まで\*
- 2000年6月カシャガンにおいて原油発見
- カシャガン油田以外にもカラムカス/アクトテ/カيران/南西カシャガンの4構造にて炭化水素の存在を確認
- 2008年10月、カザフスタン政府と最終合意に到達
- 新操業会社(North Caspian Operating Company)を設立。2009年1月より、同社が現行オペレーターAgip KCO社の役割を承継
- 2012年末 生産開始目標
- 第一段階の開発(Experimental Program)では、原油生産量(プラト一生産量)は、日量30万バレル、続いて45万バレルに逐次増加。カシャガン油田の全体開発では、2010年代末に向けて日量150万バレルを予定

注: \*20年間の延長オプション有り

# BTC(BakuTbilisiCeyhan)パイプラインプロジェクト INPEX BTC Pipeline, Ltd.

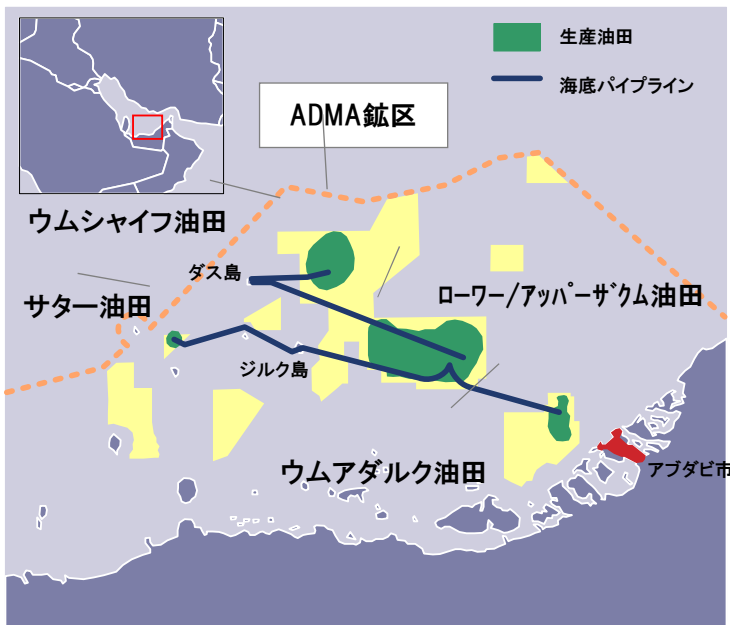
**INPEX**



- 当社権益比率:2.5%(オペレーター:BP)
- 2002年10月に操業会社BTC Co.の発行済み株式をINPEX BTC Pipeline, Ltd.が取得
- 2004年2月、パイプライン建設の資金調達を目的とするプロジェクトファイナンス契約調印
- 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
- 2007年第2四半期、輸送能力日量100万バレルの設備のコミッショニングを完了
- 2009年3月末、累計5.8億バレル出荷
- 2009年第二四半期、輸送能力日量120万バレルまでの拡張工事を完了予定。

# ADMA鉦区 ジャパン石油開発

**INPEX**



- ウムシャイフ/ローワーザクム
  - ・ 当社権益比率: 12.0%(オペレーター: ADMA-OPCO\*)
- アッパーザクム/ウムアダルク/サター
  - ・ 当社権益比率:  
アッパーザクム/ウムアダルク 12.0%  
サター 40.0%(オペレーター: ZADCO\*)

\*アブダビ国営石油会社とJODCOなどで設立した操業会社。JODCOから両社へそれぞれ12%を出資。

- 利権契約: 2018年まで(ただしアッパーザクム油田の権益期限は2026年)
- 生産量維持・拡大のため開発作業を継続中
  - ・ 全油田で水圧入を実施
  - ・ ウムシャイフ/ローワーザクムでガス圧入を実施
  - ・ 有望未開発4構造の開発計画策定作業
  - ・ 新ガス圧入施設(ウムシャイフ)、追加ガス処理施設(ローワーザクム)設置作業
  - ・ 人工島を利用した再開発計画策定作業(アッパーザクム)

# アザデガン油田 アザデガン石油開発

**INPEX**

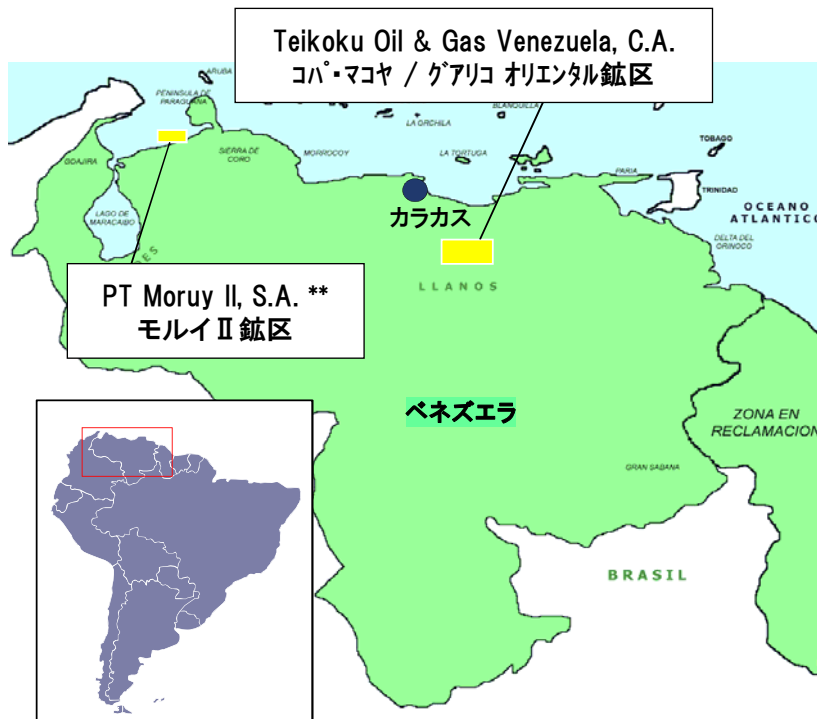


- 当社権益比率:10%  
(イラン側と協議を継続中)
- サービス契約(バイバック契約)
- 油田開発プロジェクトは2段階\*
  - ・ 開発第1段階として2013年に日量15万バレルに達する計画
  - ・ 開発第2段階へ移行した場合、2017年以降に日量26万バレルの生産に達する見込み

注:\*全鉱区ベース、生産量達成時期は2009年後半に開発工事が開始されるとの前提であるが、進捗状況により変更がありうる。

# ベネズエラ プロジェクト Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.ほか

**INPEX**



## コパ・マコヤ (ガス事業)/

## グアリコ オリエンタル鉱区(原油事業)

- ジョイントベンチャー出資比率
  - ・ ガス事業:70%、原油事業:30%
- ジョイントベンチャー契約
  - ・ 2006-2026年
- 生産量\*
  - ・ ガス: 日量約78百万立方フィート
  - ・ 原油: 日量約2千バレル

## モルイⅡ 鉱区

- 当社権益比率:50%
- 試掘1号井掘削準備中

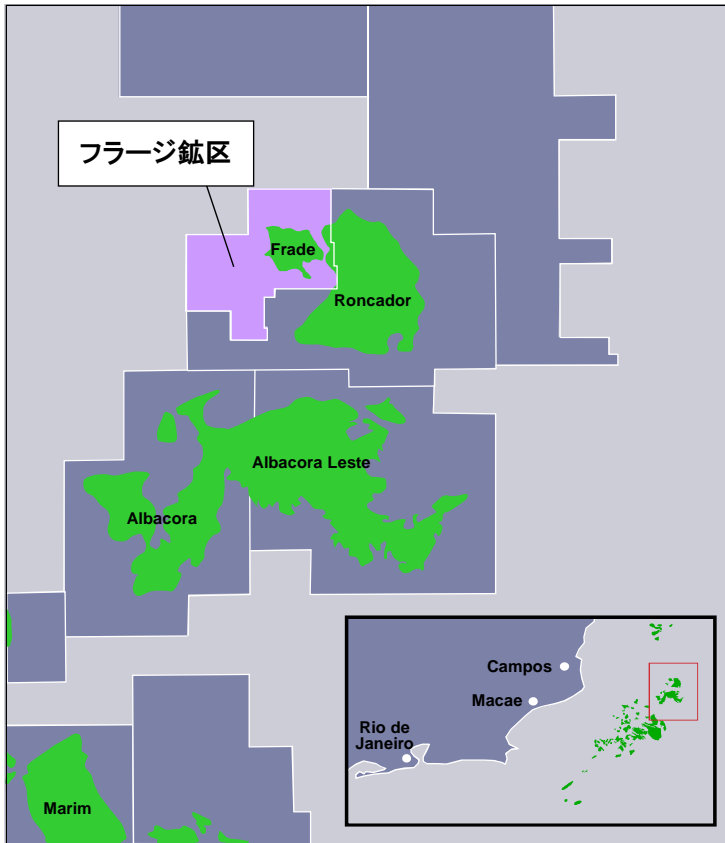
\* 全鉱区ベース2009年3月平均日産量

\*\* ペトロプラスと当社50:50の共同出資によるJV



# フラージ鉱区

Frade Japão Petróleo Limitada (FJPL)

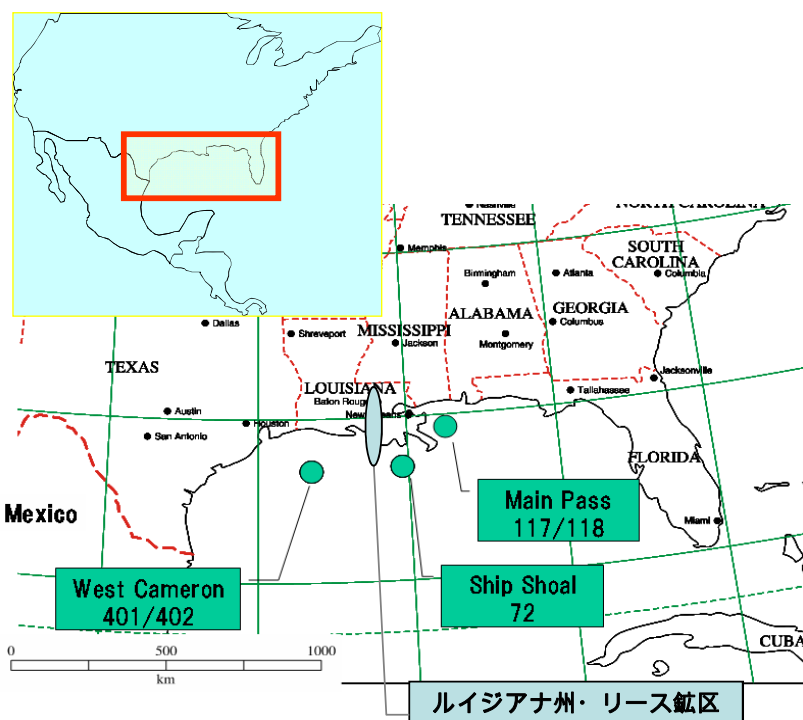


- 権益比率: FJPL\*18.3%  
(オペレーター: Chevron)
- \*持分法適用関連会社(当社はFJPLの37.5%の株式を保有)
- コンセッション契約: 2025年まで
- 2006年6月、最終投資決定
- 2009年年央生産開始予定
- ピーク生産量は、日量約10万バレル



# 米国メキシコ湾 プロジェクト

Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.



- 当社権益比率
  - Ship Shoal 72 : 25%
  - West Cameron 401/402 : 25%
  - Main Pass 117/118 : 10%
  - ルイジアナ州・リース鉱区  
LSL 19372:18.75%
- コンセッション契約
- 生産量\*
  - ガス: 日量約39百万立方フィート
  - 原油: 日量約1千5百バレル

\* 全鉱区ベース2009年3月平均日産量

# Block 18 鉱区 テイコク・オイル・エクアドル

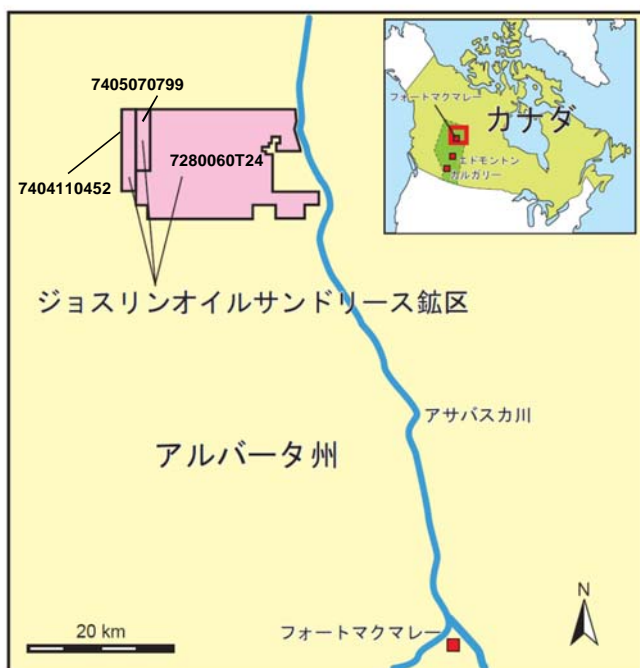


- 当社権益比率:40%  
(オペレーター:ペトロブラス)
- コンセッション契約(2002-2022年)
- 生産量\* : 日量約3万3千バレル
- 2008年10月27日、権益取得の政府承認手続きが完了
- 2008年12月16日、PESA(ペトロブラス社子会社)と権益譲渡について最終合意



\* 全鉱区ベース2009年3月平均日産量

# ジョスリン オイルサンドプロジェクト インペックスカナダ石油

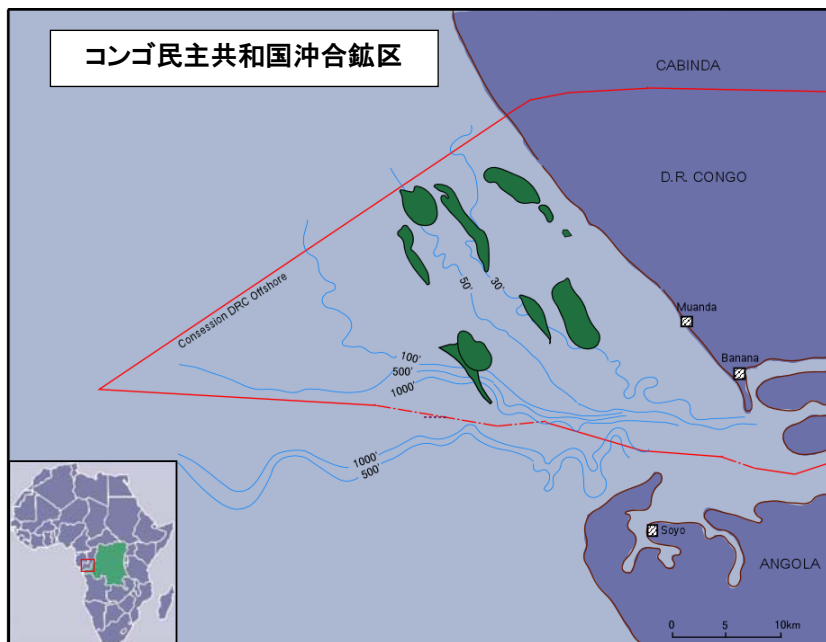


ジョスリンオイルサンドリース鉱区 位置図

- 当社権益比率 :
  - 上流開発プロジェクト 10% (オペレーター:TOTAL)
  - 改質プロジェクト 7.14% (オペレーター:TOTAL)
- リース契約 (3鉱区の合計約220km<sup>2</sup>)
  - ・ 7280060T24 : 無期限
  - ・ 7404110452 : 2004年11月より15年間のprimary lease\*
  - ・ 7405070799 : 2005年7月より15年間のprimary lease\*
- 上流開発プロジェクト :
  - ・ 2006年にスチーム圧入 (SAGD法) による生産を開始したが、2009年2月に操業休止を決定。2009年3月生産休止。
  - ・ 2010年代後半までに、露天掘り開発により、日量10万バレルの生産を計画 (第一段階)、その後、日量20万バレルまで拡大予定 (第二段階)
- 改質プロジェクト :
  - ・ 2010年代中に処理能力日量13万バレルの改質プラント (第1段階) をアルバータ州エドモントンに建設する計画

\*延長可能

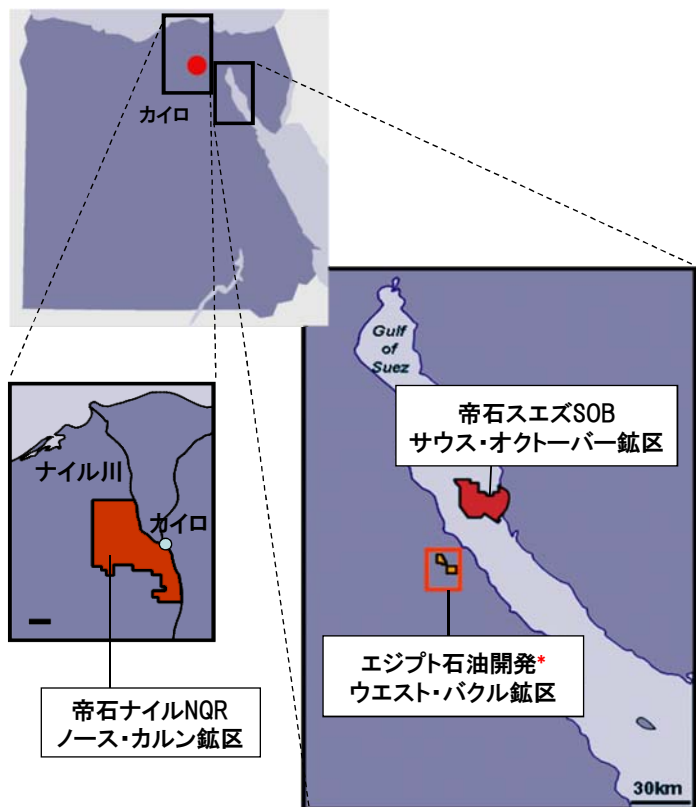
# コンゴ民主共和国沖合鉱区 帝石コンゴ石油



- 当社権益比率:32.28%  
(オペレーター:ペレンコ)
- コンセッション契約(1969-2023年)
- 生産開始:1975年
- 生産量\*: 日量約1万6千バレル

\*全鉱区ベース2009年3月平均日産量

# エジプト プロジェクト エジプト石油開発\*ほか



## ウェスト・バクル鉱区

- 当社権益比率:100%(オペレーター)
- PS契約(1975-2020年+5年延長オプション)
- 生産開始:1980年
- 生産量\*\*: 日量約4千バレル

## サウス・オクトーバー鉱区

- 当社権益比率:35%(オペレーター:Dana Petroleum)
- PS契約(2005-2010年)
- 地質解釈作業実施中

## ノース・カルン鉱区

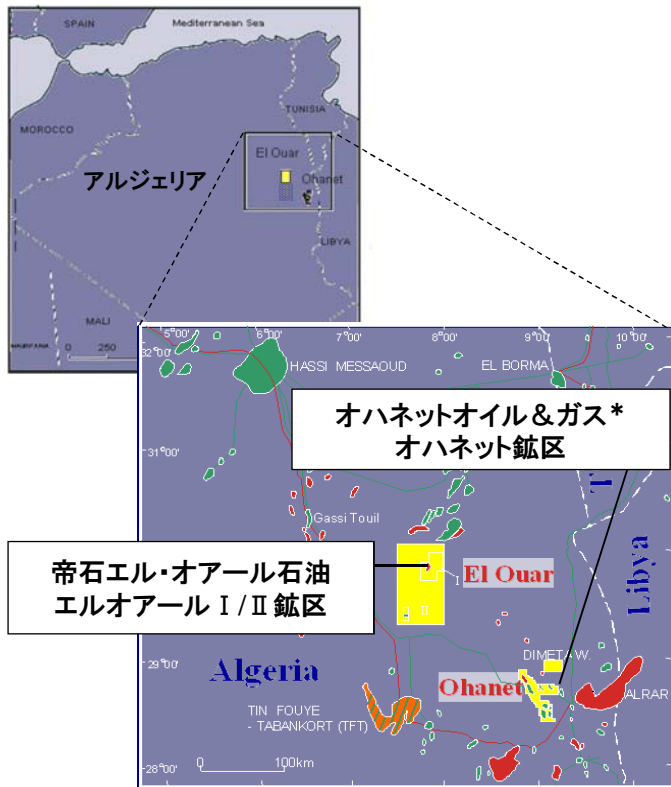
- 当社権益比率:25%(オペレーター:Dana Petroleum)
- PS契約(2005-2009年)
- 地質解釈作業実施中

\* 当社株主シェア52.7%

\*\* 全鉱区ベース2009年3月平均日産量

# アルジェリア プロジェクト

## オハネットオイルアンドガス\*/帝石エル・オアール石油 **INPEX**



### オハネット鉱区

- 権益比率:30%(オペレーター:BHPB)
- リスクサービス契約(2000-2011年)
- 生産開始:2003年10月
- 生産量\*\*
  - ・ドライガス: 日量約547百万立方フィート
  - ・コンデンセート: 日量約2万2千バレル
  - ・LPG: 日量約2万2千バレル

### エル・オアール I / II 鉱区

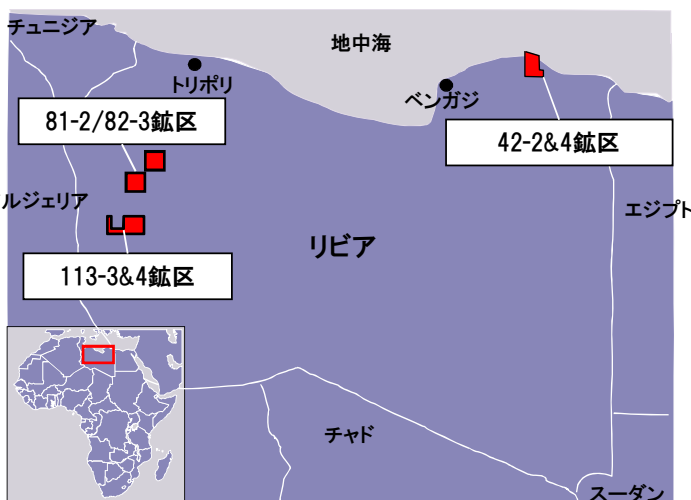
- 当社権益比率:10.29%(オペレーター:ENI)
- コンセッション契約
- 原油およびガス・コンデンセート田の開発準備中

\* 当社株主シェア15%

\*\* 全鉱区ベース2009年3月平均日産量

# リビア プロジェクト

## Teikoku Oil Libya UK Ltd/インペックスリビア石油 **INPEX**



### 当社権益比率

- ・ 81-2鉱区、82-3鉱区:73%(オペレーター)
- ・ 42-2&4鉱区:40%(オペレーター:TOTAL)
- ・ 113-3&4鉱区:85%(オペレーター)

### PS契約(探鉱契約5年間)

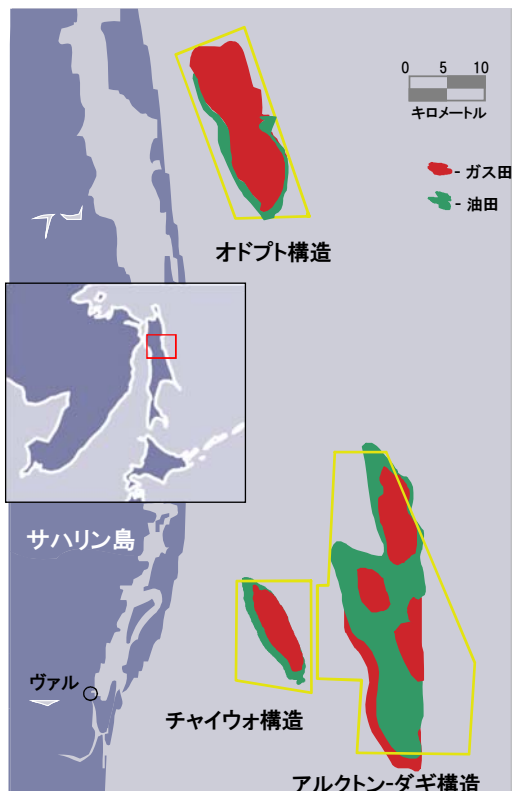
- ・ 81-2/82-3鉱区/42-2&4鉱区:2005-2010年
- ・ 113-3&4鉱区:2007-2012年

### 作業現況

- ・ 81-2鉱区、82-3鉱区:試掘作業中
- ・ 42-2&4鉱区:地質解釈作業実施中
- ・ 113-3&4鉱区:試掘準備作業中

# サハリン I

# サハリン石油ガス開発 INPEX



\*2009年3月平均日産量

- サハリン石油ガス開発(SODECO):  
当社が5.75%の株式を保有  
(石油公団が保有していた50%の株式は経済産業大臣が承継し、当社は諸条件が整えば、最大33%まで取得する方向で調整中)
- SODECOの権益比率: 30.0%
- 生産量\*
  - ・ 原油・コンデンセート 日量約19万バレル
  - ・ ガス 日量約907百万立方フィート
- オペレーター: ExxonMobil
- パートナー: ONGCヴィデッシュ、サハリンモルネフテガス・シェルフ、RNアストラ
- PS契約: 2001年12月、プロジェクトの「商業性宣言」がロシア政府より承認され、20年間の開発期間に移行
- 2005年10月生産開始、2006年10月原油輸出開始
- 天然ガスをロシア国内に供給。さらに中国等へ輸出を検討中

# 東シナ海

# 国際石油開発帝石 INPEX



- 1969年: 試掘権を出願
- 1981・84年: 地震探鉱を実施
- 1992年: 中国側が平湖油・ガス田を発見、1998年生産を開始
- 1997～1999年: 石油公団が地震探鉱を実施
- 2004～2005年: 石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が地震探鉱を実施
- 2005年4月: 経済産業省が試掘権設定のための処理手続きを開始、これを受け、九州経済産業局に対して、当社出願42,000km<sup>2</sup>のうち3エリア(約400km<sup>2</sup>)の試掘権設定の願いを提出
- 2005年7月: 同3エリアの試掘権が付与され、8月に鉱業権設定が完了
- 2008年6月18日: 「東シナ海における日中間の協力について」に関し、日中政府間で基本合意。
  - ・ 日中間の東シナ海における共同開発について
  - ・ 白樺(中国名:「春曉」)油ガス田開発について
- 現在は、共同開発の具体的な内容、進め方について政府間の協議が進められているものと認識しており、当社グループとしては、引き続き同協議の行方を見守りながら、作業着手への準備を整えつつ、関係官庁等と協議した上で進めたいと考えている

# 主要会社一覧及び石油契約①



会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
・日本					
国際石油開発帝石	南長岡ガス田ほか*	日本	コンセッション	-	
・アジア/オセアニア					
国際石油開発帝石	マハカム沖鉱区	インドネシア	PS	-	
ナトゥナ石油	南ナトゥナ海B鉱区	インドネシア	PS	100%	
MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲーLNG)	インドネシア	PS	44%	
インベックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディ)*	インドネシア	PS	50.84%	
サウル石油	バユ・ウンダン	チモール海共同開発地域	PS	100%	
インベックス西豪州ブラウズ石油	WA-285-P鉱区(イクシス)*	オーストラリア	コンセッション	100%	
インベックスチモールシー	キタン油田	チモール海共同開発地域	PS	100%	
アルファ石油	ヴァンゴッホ油田/ラベンスワース油田	オーストラリア	コンセッション	100%	
・ユーラシア					
インベックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	PS	51%	
インベックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	PS	45%	

注: \*オペレータープロジェクト

# 主要会社一覧及び石油契約②



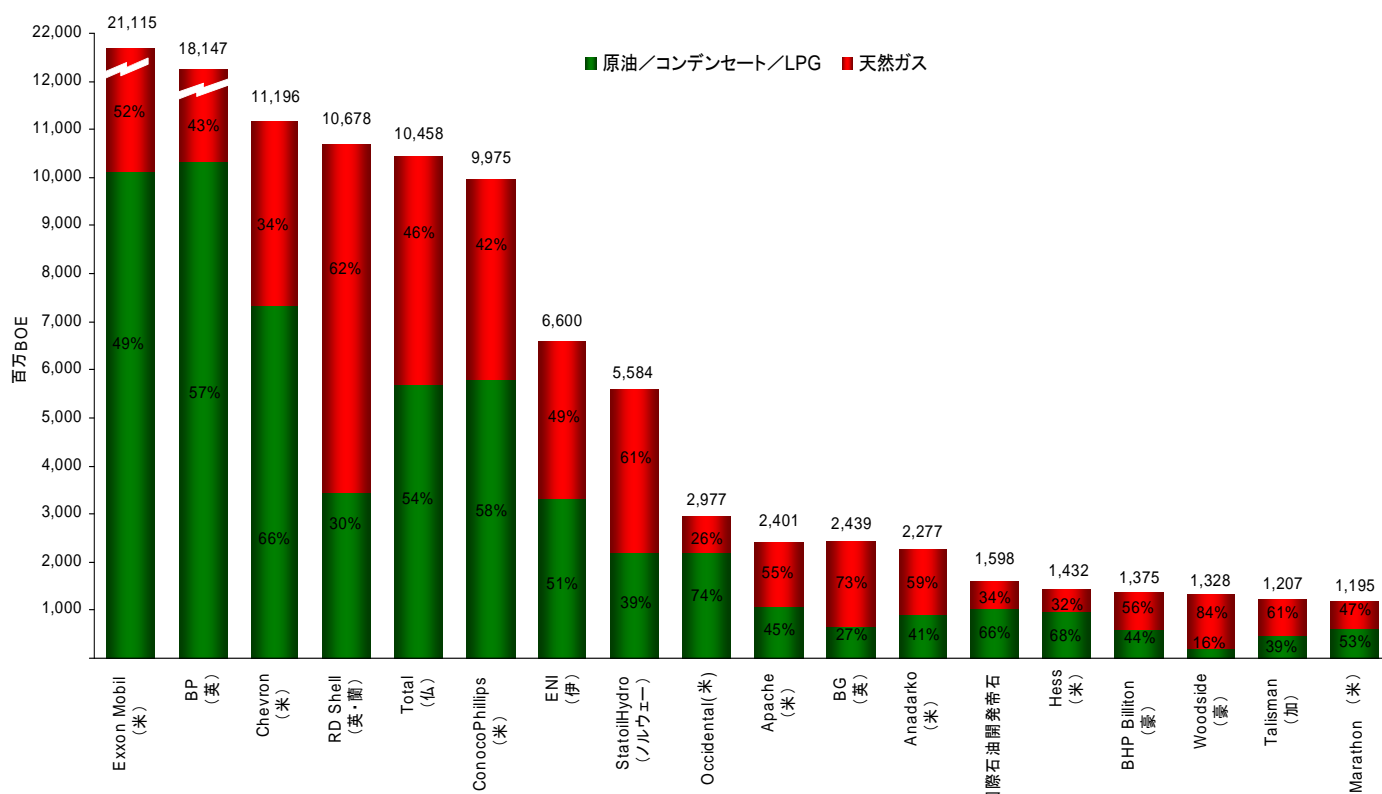
会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
・中東					
ジャパン石油開発	ADMA鉱区(アッパーザクム油田等)	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	
アザデガン石油開発	アザデガン油田	イラン	サービス	100%	
・アフリカ					
帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	コンセッション	100%	
エジプト石油開発	ウエスト・バクル鉱区*	エジプト	PS	52.7%	
帝石スエズSOB	サウス・オクトーバー鉱区	エジプト	PS	100%	
帝石スエズNQR	ノース・カルン鉱区	エジプト	PS	100%	
オハネットオイルアンドガス	オハネット鉱区	アルジェリア	サービス	15%	
帝石エル・オアール石油	エル・オアール I / II 鉱区	アルジェリア	コンセッション	100%	
Teikoku Oil Libya UK Ltd	81-2/82-3鉱区*	リビア	PS	100%	
インベックスリビア石油	42-2&4/113-3&4鉱区*	リビア	PS	100%	
・米州					
インベックスカナダ石油	ジョスリンオイルサンドリース鉱区	カナダ	コンセッション	100%	
テイコク・オイル・アンド・ガス・ベネズエラ	コパ・マコヤ*/グアリコオリエンタル	ベネズエラ	ジョイントベンチャー	100%	
PT Moruy II, S.A.	モルイ II 鉱区	ベネズエラ	ジョイントベンチャー	50%	探鉱中
テイコク・オイル(ノース・アメリカ)	Ship Shoal 72, West Cameron 401/402ほか	米国	コンセッション	100%	
Frade Japã o Petr�leo Limitada	フラージ鉱区	ブラジル	コンセッション	37.5%**	
テイコク・オイル・エクアドル	Block 18	エクアドル	コンセッション	100%	

注: \*オペレータープロジェクト

\*\*インベックス北カンボス沖石油(当社の持分法適用関連会社)の子会社。出資比率は同社を通じての当社の実質的な比率。

その他

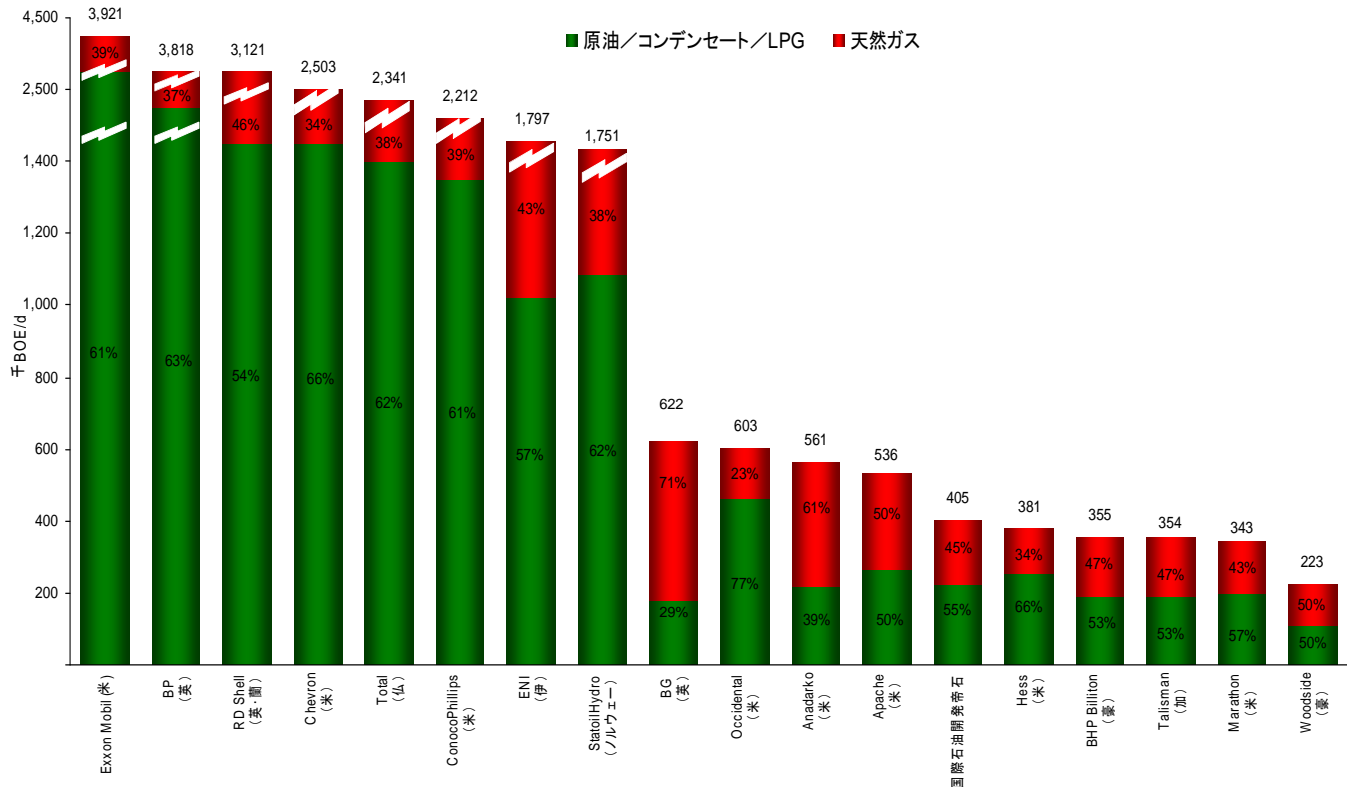
メジャー・主要な独立系石油ガス会社との  
確認埋蔵量の比較



出所: 直近の各社公表財務情報

注: \* 各社2008年12月末時点であるが、当社および日本企業は2009年3月末時点、BHP Billitonは2008年6月末時点の米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。当社の確認埋蔵量はDeGolyer & MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づき、DeGolyer & MacNaughton社評価対象外の埋蔵量は含まない。持分法適用会社の持分を含む。比較企業として産油国国営企業は除外している。

# メジャー・主要な独立系石油ガス会社との 生産量の比較



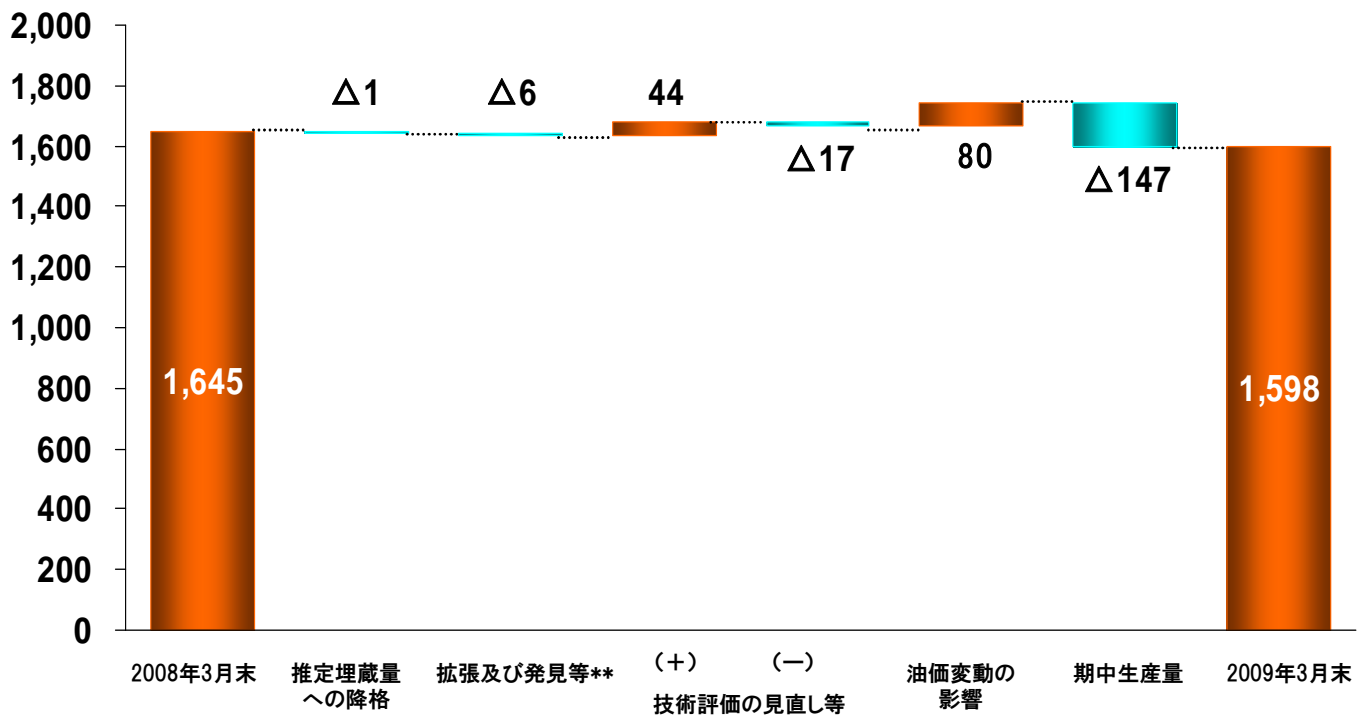
出所: 直近の各社公表財務情報

注: \* 各社2008年12月期であるが、当社および日本企業は2008年3月期、BHP Billitonは2008年6月期の米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。比較企業として産油国国営企業は除外している。

## 確認埋蔵量\*の推移の要因分析



(百万BOE)



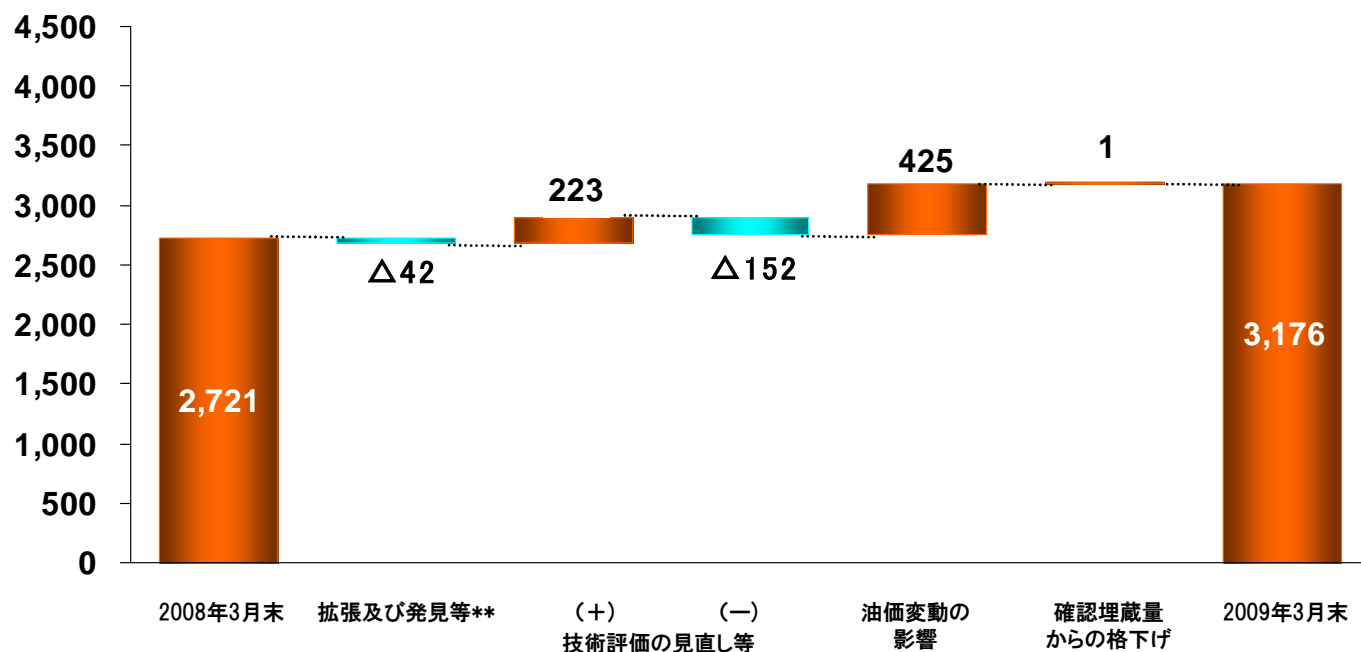
\* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。

\*\* 買収及び売却等を含む。



## 推定埋蔵量\*の推移の要因分析

(百万BOE)



\* 推定埋蔵量は、DeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSに従った確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計値から、SEC確認埋蔵量を差し引いた数値。持分法適用会社の持分を含む。

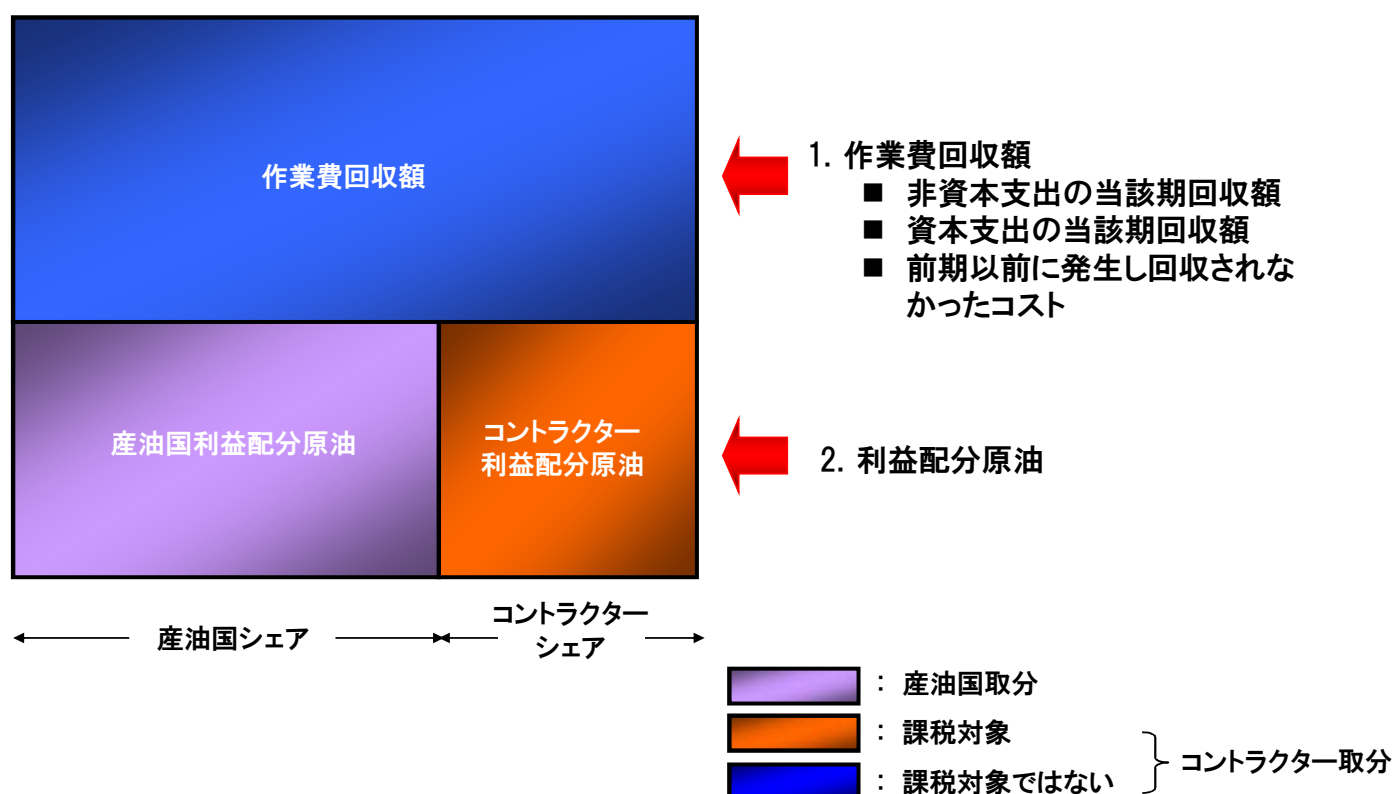
48 \*\*買収及び売却等を含む。

## 確認埋蔵量の定義

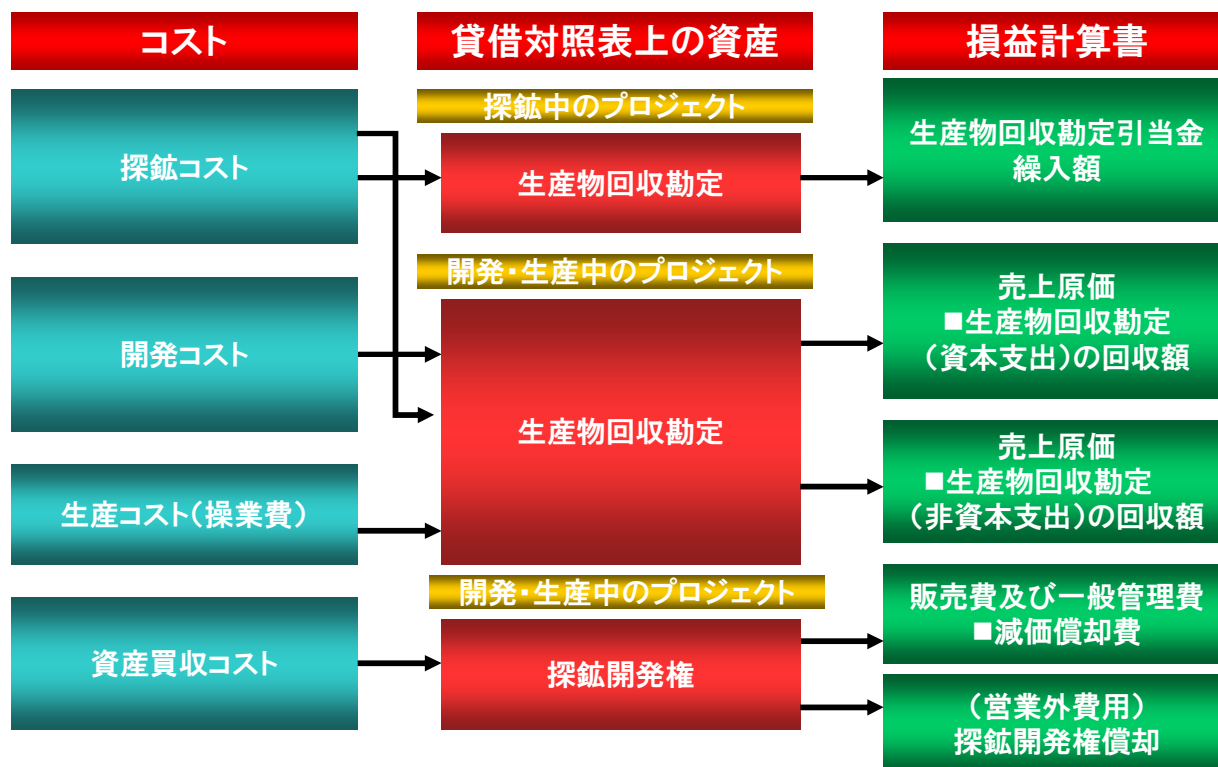
- 確認埋蔵量(proved reserves)の定義は、米国の投資家に広く知られている米国証券取引委員会規則S-X Rule 4-10に従っており、地質的・工学的データに基づき、現在の経済条件及び操業条件の下で、将来にわたり合理的な確実性をもって回収することが可能である原油・天然ガスの数量(estimated quantities)とされております
- 確認埋蔵量に分類されるためには、市場及び経済性のある採取・処理・出荷手段が既に存在するか、あるいは、近い将来に実現することが確実であることが条件となっており、石油・ガス業界で用いられる埋蔵量の定義の中でも保守的な数値として広く認識されております
- また、米国証券取引委員会規則の定義による確認埋蔵量は、既存の坑井及び施設を利用して回収することができる確認開発埋蔵量(proved developed)と将来掘削される坑井及び施設を利用して回収することができる確認未開発埋蔵量(proved undeveloped)の二つに区分されております

- 推定埋蔵量(probable reserves)の定義は、石油技術者協会(SPE)が世界石油会議(WPC)・米国石油地質技術者協会(AAPG)・石油評価技術者協会(SPEE)の支援の下に策定した基準(2007PRMS)に従っており、地質的・工学的データに基づき、確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される原油・天然ガスの数量とされております
- 確率論的手法を用いて推定埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合計した数量(2P)を回収できる確率が50%以上であることが必要とされています
- 米国証券取引委員会規則に基づく確認埋蔵量との違いは、埋蔵量評価時点において、将来にわたり合理的な確実性をもって回収することが可能と認識できるかどうかという点です。新規技術データの追加によって技術的確実性が高まること、新規事業の場合には契約条件の確定・投資の意思決定などによって開発が確実になること等により、推定埋蔵量の一部は確認埋蔵量に格上げされていくことが期待されます

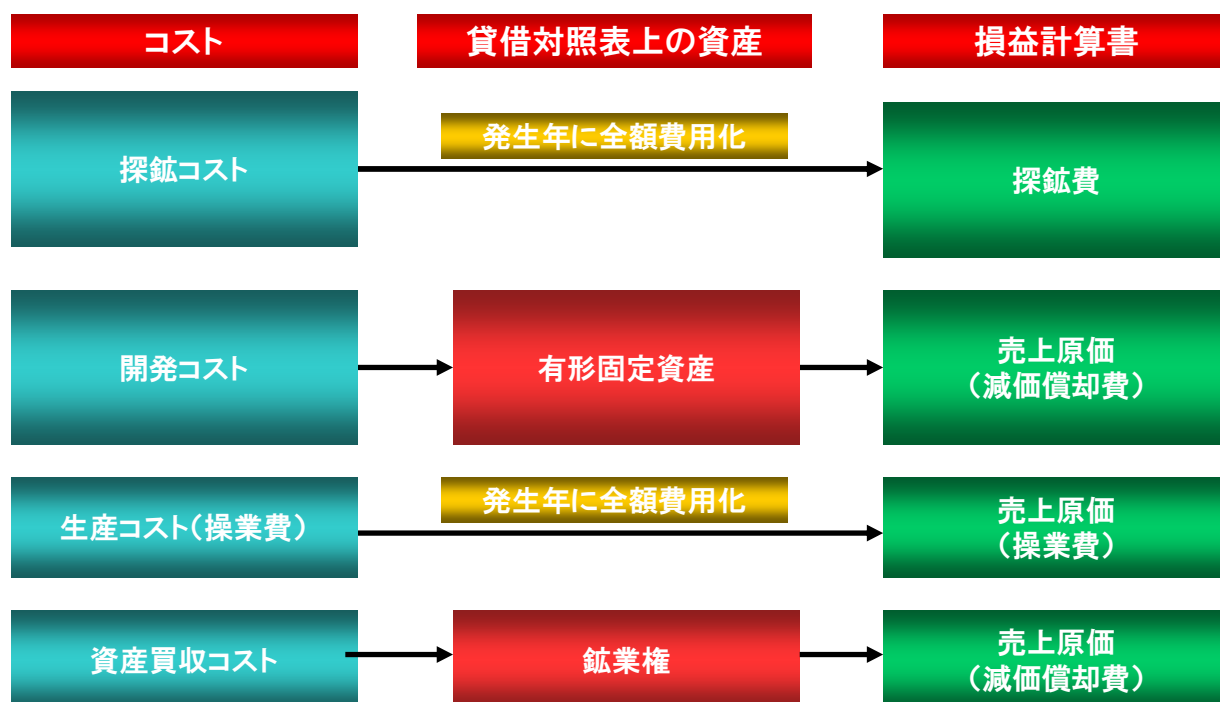
# 生産分与契約



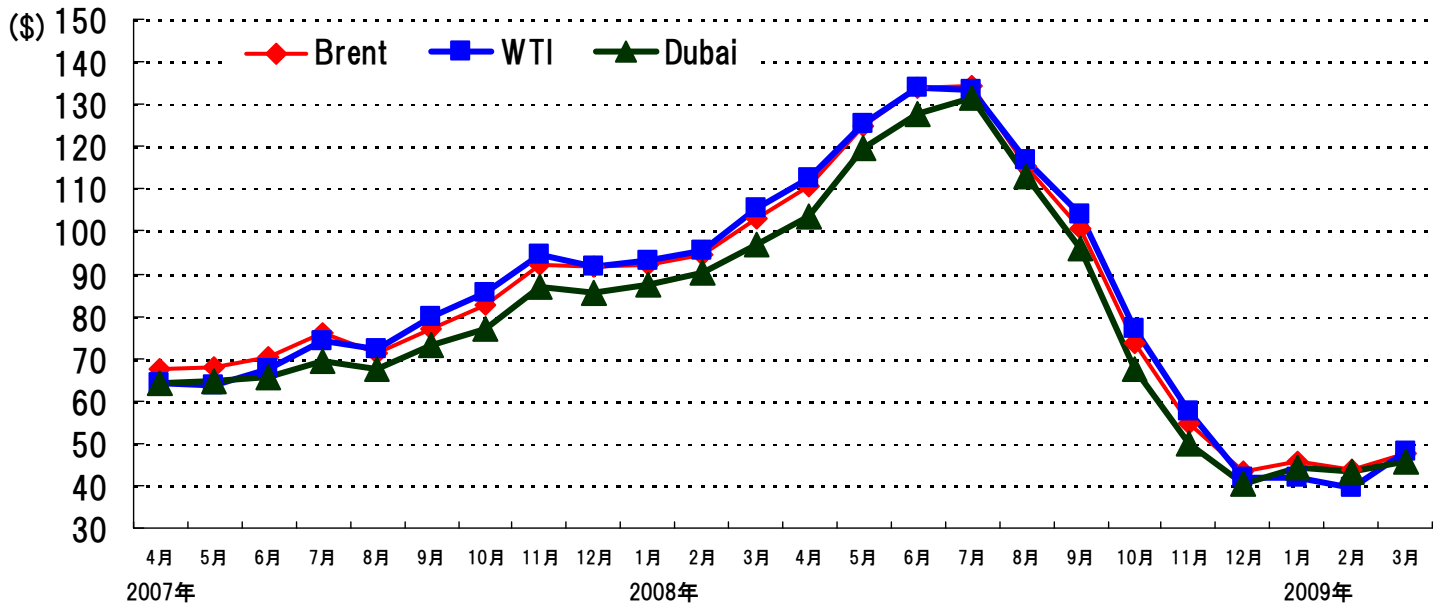
# 生産分与契約に係る会計処理



# コンセッション契約に係る会計処理



# 油価の推移



	2008年 3月期	2008年												2009年												2009年 3月期
	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
Brent	82.14	110.48	124.69	133.73	134.56	115.24	100.79	73.68	54.75	43.05	45.71	43.87	47.42											85.66		
WTI	82.25	112.46	125.46	134.02	133.48	116.69	103.76	76.72	57.44	42.04	41.92	39.26	48.06											85.94		
Dubai	77.36	103.41	119.50	127.82	131.27	112.86	95.90	67.42	49.84	40.53	44.12	43.09	45.59											81.78		